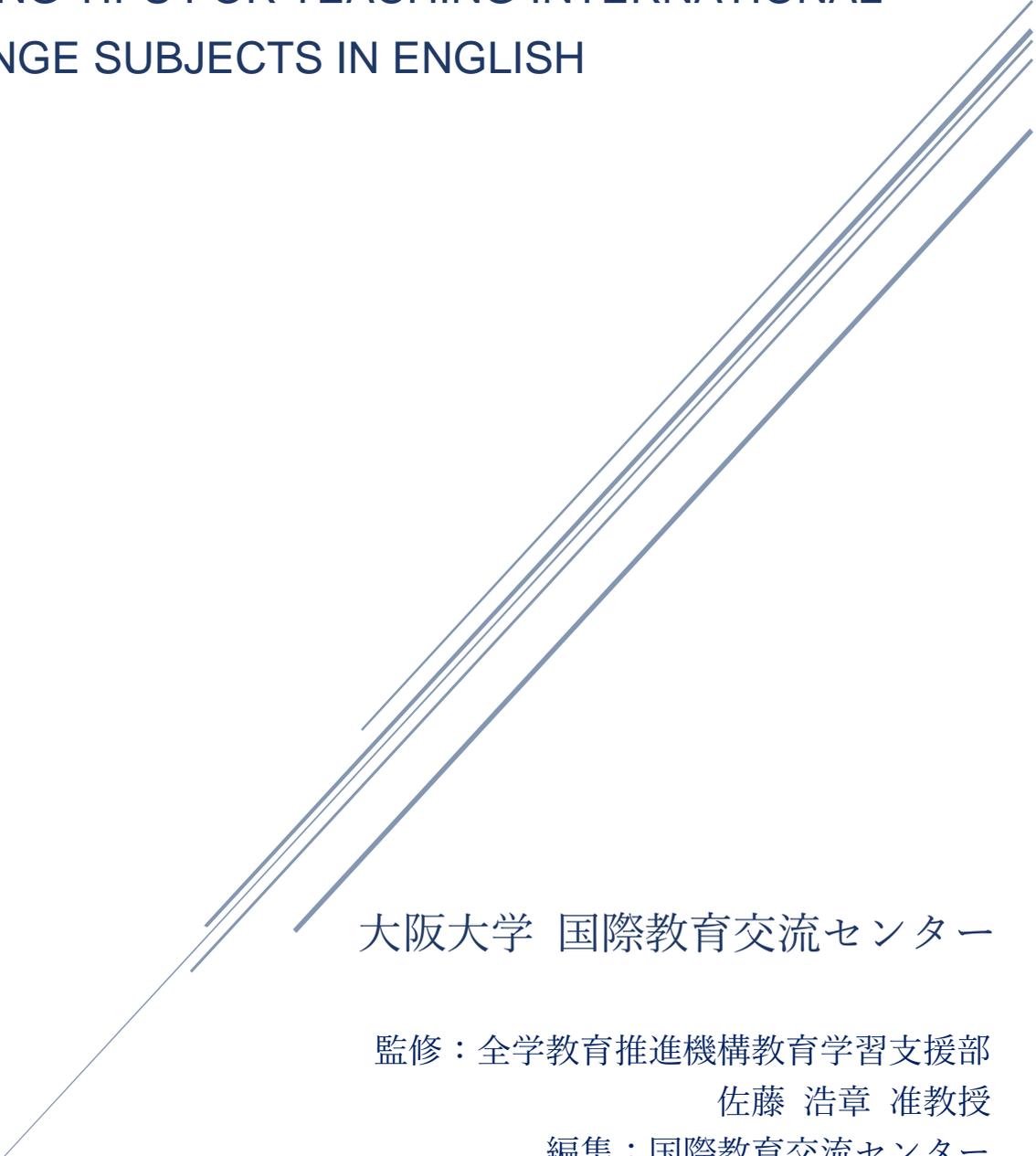


# 英語で国際交流科目を教えるための のティーチング・ティップス

TEACHING TIPS FOR TEACHING INTERNATIONAL  
EXCHANGE SUBJECTS IN ENGLISH



大阪大学 国際教育交流センター

監修：全学教育推進機構教育学習支援部  
佐藤 浩章 准教授

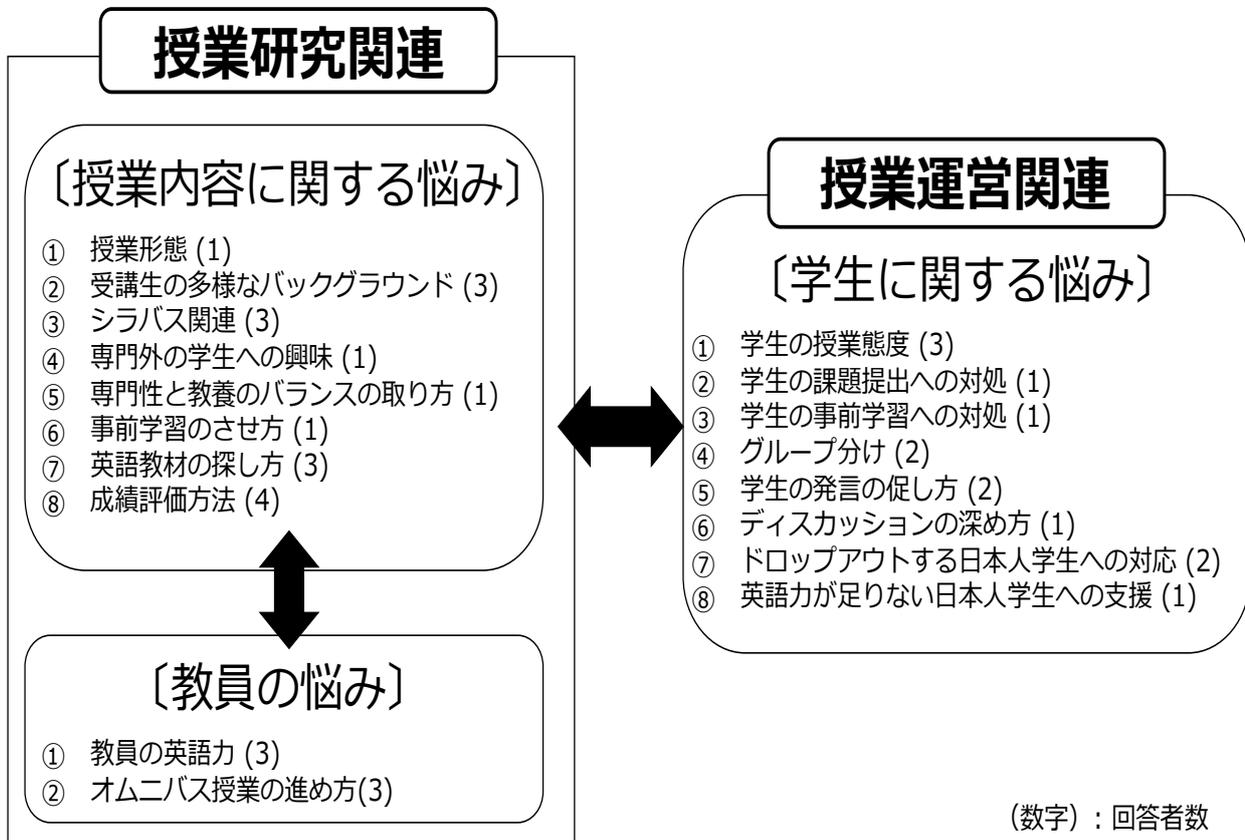
編集：国際教育交流センター  
中野 遼子

## 国際交流科目の特徴と目的

国際交流科目の特徴	
①	国際交流中心
②	専門性<教養（幅広い知識）
③	多様な考え方を知る。
④	多様な考え方の中で、自分の意見が言える。
⑤	出身大学ではできない体験ができる。

国際交流科目の目的	
①	多様性を受け入れる寛容性を身につける。【マインド】
②	国際社会との比較の文脈で、大阪・関西・日本のローカルな文化・社会・科学・技術に関わる知識を習得できる。【知識】
③	多様性を踏まえ、課題解決の方法を導き出すことができる。【思考・判断・表現】
④	多様な他者の中で、自分の意見を論理的に主張できる。【思考・判断・表現】

## 国際交流科目担当者の悩みのまとめ



## 授業内容に関するティーチング・ティップス

### Q1 どういう授業形態がよいのか？ (1)

(数字) : 回答者数  
◆: 先行研究の回答

<p style="text-align: center;"><b>1. インタラクティブな授業にする</b></p> <p>① ディスカッションを導入する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中にディスカッションを一部導入。</li> <li>・ (20名以下なら) 終始ディスカッション + 教員のフィードバック (全員に発言させながら進められる。15回中7~8回)。</li> </ul>                 ② ワークショップを導入する (15回のうちの1~2回)。</p>	<p style="text-align: center;"><b>2. いろいろな方法を組み合わせる</b></p> <p>例① 講義・読書 → 討論 → まとめ                  例② 講義 → ワークショップ → 講義                  例③ 討論 → レポート                  例④ ミニ講義 → 討論 → まとめ</p>
<p style="text-align: center;"><b>3. その他</b></p> <p>① 学生が興味を持つ話題、身近に感じる話題を取り入れる。                  ② 先生の個性を出す。                  ③ リーディング課題を導入する (事前課題にしてもよい)。                  ④ 毎回の授業の進捗の確認。授業の最後にまとめがあるとよい。                  ⑤ 日本人には日本語を使った予習も可とする。</p>	<p style="text-align: center;"><b>参考文献</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中村俊樹 (編) 『大学教員のための教室英語表現300』 (アルク、2008)</li> <li>・ 中島英博 (編著) 『授業設計』 (玉川大学出版部、2016)</li> <li>・ “English as Medium of Instruction” 関連の文献</li> </ul>

### Q2 留学生の多様なバックグラウンドに配慮しつつ、授業内容を深めるには？ (3)

<p style="text-align: center;"><b>1. 講義の工夫</b></p> <p>① 担当教員によるルールをしっかりと説明する。                  ② 講義内容を工夫する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キーワードや講義のポイントを明示する。</li> <li>・ 視覚教材を使用する。</li> <li>・ 主要な理論をわかりやすく要約する。</li> <li>・ 広く浅く、興味を引くような内容にする。</li> <li>・ リーディング課題は少なくとも、2週間以前に周知 (配布が望ましい) する。</li> <li>・ 先生を交えたディスカッションなど、相手のレベルに合わせた情報提供の手法を取り入れる。</li> </ul> </p>	<p style="text-align: center;"><b>2. 学生へのサポート</b></p> <p>① バックグラウンドの違いについて学ぶ機会を取り入れる。                  ② 専門分野の知識のある学生が他の学生に説明する時間をつくる。                  ③ 学生向けに、サポート教材を作成する。                  例) クラスルーム・イングリッシュ (よく使うフレーズ) 集                  ④ リアクションペーパーを活用する。                  ⑤ グループワークの際、メンバーの入れ替えを行う。                  ◆ 学生からの質問に適切に回答する。</p>
--	---

### Q3 シラバスはどの程度詳細に、どのような内容を書くべきか？ (3)

<p>① 単位互換できるように教科書指定や詳細なシラバスを作成する。                  ② 余白を残しつつ、何を目的としてどんな文献を用いた授業か分かるようにする。                  ③ アピールポイントを明記する。                  ◆ 評価基準を明記する。</p>
--

## Q4 専門外の学生にも授業内容に興味を持たせるための工夫は？（1）

1. 簡潔で分かりやすくする	2. 学生が興味を持つテーマを選択
<ul style="list-style-type: none"><li>① 難しいことを簡潔に、素人に説明するように話す。</li><li>② シラバス自体を、簡潔で分かりやすくする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 共通で話し合えるテーマを組み込む（具体例があると良い）。</li><li>② 専門以外の学生に興味を持たせるために、身近な例を取り上げる。 例) 科学なら遺伝子組み換えについてなど</li></ul> <p>◆ 異文化理解を促進するテーマを選ぶ。</p>

## Q5 専門性と教養のバランスの取り方はどうあるべきか？（1）

<ul style="list-style-type: none"><li>① 受講生の割合を見て、授業内容を柔軟に決定する。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学生によって内容を柔軟に変更する。</li><li>・ 理系の学生は専門的な知識を学びたいかもしれないので、事前に確認する。</li></ul></li></ul>
---

## Q6 基礎的な知識を事前に学習してもらうべきか？（1）

<ul style="list-style-type: none"><li>① 予習は必須と考えているが、授業の最初に内容を確認するようにしている。</li><li>② 学生が自習できるように、参考文献を挙げておく。</li><li>③ 課題を読むことを宿題にする。</li><li>④ 予習は必須ではない。</li></ul>
--

## Q7 英語教材をどのように探せばよいか？（3）

1. 映像を取り入れる	2. ARCSモデル（学習意欲モデル）を活用する
<ul style="list-style-type: none"><li>① You Tubeを多く取り入れる。</li><li>② 動画やICTを活用する。</li></ul> <p>&lt;参考サイト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ Netflixの世界の“今”をダイジェスト</li><li>・ TED talks channel</li></ul> <p><b>英語教材の参考ウェブサイト</b> howstuffworks（様々なトピックの英文記事を検索できるサイト）（<a href="https://www.howstuffworks.com/">https://www.howstuffworks.com/</a>）</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 新しい視点、問われて考えさせられる内容にする。</li><li>② 学習内容が学生の実生活と結びついている課題を与える。</li><li>③ 教員自身がおもしろいと思う内容にする。</li><li>④ 普段できない体験をさせる工夫をする。</li></ul>

## Q8 どのように成績評価すべきか？（4）

<ul style="list-style-type: none"><li>① 複数教員で評価を行う。 成績等のチェックはどうしても主観的になるので、複数で分担し、その痕跡を残す。</li><li>② 他の教員の成績評価の例を紹介・共有する。 先生方が良いと思う教授法を共有する。</li><li>③ 語学の授業ではないので、英語のレポートについては内容を重視する。</li></ul>
---

## 学生に関するティーチング・ティップス

### Q1 授業中の学生の睡眠・私語・スマホへの対応はどうすべきか？ (3)

- ① 事前にルールやペナルティーを決めておく（授業中の携帯電話、私語は禁止など）。
- ② 参加態度を成績評価に入れる。
- ③ ディスカッションだけでなく、ある問題に対する答えを時間内に出してもらった課題を与える。

### Q2 課題提出状況の悪い学生にはどう対処すべきか？ (1)

- ① 教員が気にかけて話しかける。  
（提出しないのではなく、提出できない理由があることも配慮する。）
- ② 授業終了後に全員分の課題を集める。

### Q3 文献を読んでこない学生にはどう対処すべきか？ (1) （事前に目を通すことを促しつつ、授業で内容を確認したい）

- ① 授業中に文献を読む時間をつくる。  
（例えば、5分間で英語が得意な人は英文600字、英語が苦手な人は200字程度読める。）

### Q4 グループ分けをどのようにしたらよいか？ (2)

- ① 少人数グループのメンバーを毎回変える／席を移ってもらう。
- ② 毎回席をくじにする。
- ③ 属性が違うと思う者で組むよう指示するなど、グループ決めもワークの一部にする。

### Q5 すべての学生に質問やコメントを積極的にしてもらうにはどのよう にすればよいか？ (2)

- ① 2~4人くらいの小さいグループを作る。その後、全体で共有。
- ② 教員が意識して声をかける（自分のことを話したい学生は少なくない）。
- ③ 議論を独占する学生がいる場合は、「まだ発言していない人」などと指定して発言を求める。
- ④ ボールを回して、持った人に発言させる。

### Q6 ディスカッション等において、学生の浅い知識を教え合うような 形にならないようにするにはどうすればよいか？ (1)

- ① TAや教員がディスカッションに介入する。
- ② KOANやオンライン掲示板を活用する。
- ③ グループでの話し合い結果を授業後に提出させてチェックし、フィードバックをする。

## Q7 日本人学生のドロップアウトを食い止め、単位を取得させるにはどのようにすればよいか？ (2)

- ① 日本語の参考文献を多く挙げる。
- ② 日本語による期末レポートを可にする。
- ③ 英文レポートを課す場合、ページ数を少なめに設定する。

## Q8 英語力が足りない日本人学生をどう支援するか？ (1)

- ① 日本人学生の理解度を確認しながら授業を進める。
- ② 説明にジェスチャー、絵、映像などの視覚教材を取り入れる。
- ③ 日本に関するテーマ、わかりやすいゲーム等を取り入れてディスカッションを行う。
- ④ ディスカッションに入る前に、個人で考える時間を与える。
- ⑤ 英語が苦手な学生でも参加しやすいグループワークを工夫する。
- ⑥ 教室でのディスカッションに加え、ネットの掲示板でのやり取りを可能にする（CLEやLINEオープンチャット等）。
- ⑦ 文献に英語の和訳をつける。
- ⑧ 難しい英単語や専門用語には日本語訳をつける。
- ⑨ 授業後に教員やTAが日本語で対応する。
- ⑩ 英語が得意な留学生に「英語をゆっくり話してほしい」など、英語が苦手な学生に配慮するよう伝える。
- ⑪ 英語による人間関係の構築手法についても教えてあげる（初対面の人との関係構築方法など）。

## 教員の悩みに関するティーチング・ティップス

## Q1 教員の英語力が不十分で授業に自信が持てない場合、どうすればよいか？ (3)

- ① わかりやすい単語を使って、英語を話す。  
・受講生の多くは非英語圏出身の学生なので、わかりやすい簡単な英語の使用が推奨されている。
- ② 授業前に十分にリハーサルを行う。
  - ◆ 大きい声で、発音が明瞭で聞き取りやすい英語を話す。
  - ◆ 完璧な英語を目指さない。

<参考文献>

・中村俊樹（編）『大学教員のための教室英語表現300』（アルク、2008）

## Q2 オムニバス授業の進め方はどのようにすればよいか？ (3)

- ① 様々な教員から学習できる等、オムニバスの良さを活かす方法や授業スタイルを考える。
- ② 時間があれば、他の教員の授業を見学してみる。
- ③ 代表の教員がグラフィックシラバス等を作成して、授業の内容と構成を整理しておく。
- ④ オムニバス形式の良い例があれば、共有する。  
例) COデザインセンターの「コミュニケーションのいろは」など